

この歳で初めてのホームステイ？というあまり気の進まない気持ちで参加した今回の研修でしたが、言うまでもなく貴重な体験となりました。

海を渡ったのに盛岡にいるような気持ちになる、落ち着いた街ビクトリア。食べ物も口に合い、困りませんでした。特に、ワッフルとメイプルシロップは最高でした。車の運転はスピードを出さず、横断歩道では必ず止まってくれる。店でちょっとぶつかるとすぐ「Sorry.」。海沿いを犬の散歩やジョギングする人が多い、ほっとする街でした。

モンレーミドルスクールの副校長先生は、若いのにとっても思慮深い方で、こちらが過ごしやすいよう生徒同士の交流を工夫してくれたり、プレゼンテーションのために万全の準備をして下さいました。ありがとうございました。

ホームステイ先の家族も快く迎えてくれました。高校生、中学生がいる4人家族だったので、自分の家族と重ねながらの4日間のステイでした。

特に印象に残ったのは、家族内のコミュニケーションをととても大事にしていることです。

「Hello, Kiddy.」「What are you doing?」とネコが通るたびに話しかけるお母さんはとても明るく、私が帰宅すると「学校はどうだった?」「お茶はどう?」「今日は何をしたい?」と毎日声をかけてくれました。日常生活が体験したかった私は、散歩、スーパーやドラッグストアでの買い物、銀行や図書館と一緒に連れて行ってもらいました。見るものすべてが興味深く、写真の枚数も自ずと増えました。

お父さんは、連れて行ってくれたPUBで、家族を大事にしているからテレビは置かない、残業はしないと話してくれました。「退職後はなにをしたい?」「子供にはどんな職業についてほしい?」と聞かれるたびに、普段仕事に追われて何も考えず生活している自分が情けなくなりました。

穏やかでいて、自分の'Want to'をはっきり持っている人達、これが今回のビクトリアの印象です。

トラブルも無く実り多い研修となった事を、関係者の皆様方に感謝致します。

ヴィクトリアを訪れるのは、私にとって2回目だった。初めて行ったのは学生時代の旅行であった。ダウンタウンを歩いた記憶しかないが、とにかく美しい街 - という印象が深かった。その街を、立場を変え再訪できたことはとても幸せなことだった。

研修を共にした15名の中学生は、ステイ中にどんどん英語を吸収していっていることが目に見えて分かり、とても頼もしかった。それぞれが各家庭に馴染み、楽しんでいる様子。期待に胸を膨らませ、あらゆることを吸収できるその柔軟さが羨ましいほどであった。

そんな団員たちを見習い、私も経験でき得る限りのことにチャレンジしようと思いながら過ごした。興味のあるものは何でも食べてみることに、また極力家族と一緒にいて、色々な話をすることに努めた。ホストファーザーとは特に、深い話をするが多かったように思う。これからの

ライフスタイルのこと、結婚観や子育て、税金、政治、サラリー・・・。学生ではない、大人としての意見が求められる。様々なことに、自分なりのヴィジョンを持つことの大切さを今更ながら痛感する。しかしそのような会話を通して、また視野が開けてくる。文化交流の醍醐味は、そういうことにあると感じ、嬉しくなる。

今回、ホストファミリーや学校のスタッフと接する中、一貫して感じていたことがあった。それは、ヴィクトリアの人々と盛岡の人々はなんとなく似ている、ということだ。日本人は曖昧さを好み（よく言えば奥ゆかしく）、欧米人は白黒をはっきりさせたがるとはよく言うが、ゆったりとした生活や人柄といった、根底に流れているものにどこか共通している空気を感じたのだ。その穏やかな雰囲気は、日本人というより盛岡人。海岸沿いの美しい街並みを散歩しながら、そんなことを考えていた。異国の地でありながら、どこか懐かしさを漂わせる街全体の雰囲気も安堵感に浸らせてくれた。遠くて近い街にまたいつか家族で来たいと思う。

今回の研修に引率者という立場で参加させてもらい、中学生 15 名と出会えたこと、そしてヴィクトリアでの出会いのすべてに感謝したい。

「研修を終えて」

（財）盛岡国際交流協会 関田 あい

今年度の研修は、特別な意味を持つ研修であった。それは、未曾有の東日本大震災が発生してから、初めてのビクトリア市への派遣研修になるからである。

まずは、プレゼンテーションのテーマを決める際に、震災をどう取り入れるかが問題だった。結果、生徒が学校や個人で行った支援活動などを前半に、各班で振り分けた「衣・食・住」のテーマ発表を後半にすることになった。事前研修では、テーマが2つになったほか、ホストファミリー宅でカナダの休日を体験するため、英会話にかける時間が例年より多く、プレゼンの準備時間が少なかった中、発表できるまでに仕上げた生徒たちは本当に頑張ったと思う。本番のホスト校の生徒たちの反応は、震災については真剣に聞き、テーマ発表はとても盛り上がっていた。ちょっとしたミスはご愛嬌。各班の発表は見事に成功したといえる。緊張している中、見事にやり遂げたみんな、お疲れ様でした！

生徒の多くは初の海外で、ホームステイも初めての体験だっただろう。しかし、若いうちに親元を離れ、知らない外国の家庭で生活し、異文化に触れることは、非常にプラスな体験だったと思う。緊張と期待の入り混じった顔でホストファミリーとの顔合わせをした生徒たちは、海外研修が終わるころには一皮むけたような、とてもいい顔をしていた。「人の成長」を身を持って感じることができ、うれしかった。

この研修は、多くの参加できなかった中学生の涙の上にある。この2カ月半の経験をできた君たちは幸せ者だと思う。震災を通して、改めて「当たり前」の大切さを知った中で、この研修に参加できた喜びと、関わった方々に感謝の気持ちを持っていてくれたらうれしい。これからも、外国と接する機会はたくさんあるので、積極的に参加し、もっともっと羽ばたいていってくれることを願っています。

無事に団員 19 人が揃って研修を終えられたこと、今回同行できたこと、また、お世話になったビクトリアの方々、研修に関わってくださったすべての方々に感謝します。生徒たちとともに貴

重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

みんなは、ブッチャートガーデンでイノシシの鼻を触ったかな？みんなに Good Luck がありますように！

「HF・仲間との出会い～一生の宝物～」 盛岡市立北松園中学校 小西 圭太

この海外研修はとても楽しくて、最初は長いと思っていた一週間も、たった4,5日間くらいのようには思えました。

そして、ホストファミリーのブライアン、ジャクリーン、レベッカ、アレックス、オリビアに会えたことにとても感謝したいです。なぜそう言うかということ、自分の本当の家族のように優しくしてくれたからです。

モントレミドルスクールであった人達にも、とても感謝したいです。英語を話せない僕に、気軽にはなしかけてくれて、とても嬉しかったです。

今回の研修では、あいまいな言葉は、あまり使わないようにする、ということを学習しました。カナダでは、自分の意見をしっかりと伝えるということが必要だからです。日本では、「どうでもいい」とか「どっちでもいい」という言葉を使っていますが、これは、相手としてはすごく困る言葉だと思います。だからこれから日本でも、しっかり「はい」や「いいえ」で答えていきたいと思います。

この研修で一番つらかったことは、ホストファミリーとの最後の別れの時です。今まで、2,3日ずっと過ごしてきて優しくしてくれたのに、別れなければいけないと思うと、少し泣けてきました。僕は正直、日本には帰りたくありませんでした。だから余計にビクトリアを離れたくありませんでした。

今回の研修では、大勢の団員たちと行きましたが、今度は一人でカナダに行き、もっと英語を学びたいと思いました。

「ありがとう！」 盛岡市立北松園中学校 千葉 日菜子

今日までの研修で、一番に感じている思い、それは「ありがとう」という気持ちです。これは、ホームステイ先の家族、モントレミドルスクールの皆さん、ガイドの伊藤さんなどのカナダでお世話になった方々だけでなく、事務局の方々、先生方、団員の皆さん、親など、今まで私を支えてくださった方全員に感じている思いです。

はじめ、この研修に参加できることになったときは、「カナダに行ける」という嬉しい思いの反面で、「団員の皆さんとは仲良くなれるかな」という不安な気持ちもありました。しかし、一回目のアイスブレイキングで皆さんと仲良くなることができ、とても安心した記憶があります。これから先の研修も、「きっと楽しくなるんだろうな」と研修がある日が楽しみになりました。同じ学校ではない人が集まるグループでの話し合いは、私にとって様々な刺激を受けることが出来まし

た。限られた時間の中で、どれだけよいものをモンレーミドルスクールの皆さんに届けられるか。相手を知らない分、それはとても難しい作業になりましたが、「自分がやらなければならない」という気持ちを全員が持っていました。そのお陰で無事により発表をすることが出来ました。これがグループでの一番の思い出です。このメンバーでなくては出来ない発表だったと思います。本当にこのメンバーでよかったと、感謝の気持ちで一杯です。

またホストファミリーの皆さんとの思い出は、私にとってかけがえのないものになりました。家族についてたくさんのことを教えてくれたファザー、美味しい料理を作ってくれたマザー、優しくお話を聞いてくれたグランドマザー、そしてとても仲良くなったホストチューデントのベラ。みんなお別れの時はとても悲しんでくれました。言葉の通じない人を受け入れるというのは大変な決心だと思いました。それでもとても良くしてくれて、本当に嬉しかったです。

たくさんの人に支えられてできた今回の研修。私は絶対にそのことを忘れないで、学んだことをしっかりとこれらに活かしていけるように頑張ります。本当にありがとうございました！Thank you .

「言葉が通じなくても・・・」

盛岡市立北松園中学校 和田 南

私は、今回の研修で「言葉が通じなくても、コミュニケーションはとれる」ということを感じました。もちろん言葉は重要ですが、それよりも大事なものは笑顔で相手の話を聞いてあげることだと思いました。

ホストファミリーの家に行く日。私は、英語がうまく話せるか朝からずっと不安でした。現地の方が話している英語は、かなりスピードが早く、最初のうちは何を言っているのかほとんど理解することできませんでした。しかし、私が「何を言ってるのかな」という顔をすると、ホストファミリーの中1の子、アリアは改めて話の内容をゆっくり話してくれたり、私が理解するまでジェスチャーを使って話してくれました。理解できた時には、私もとても嬉しかったし、アリアもとても嬉しそうに笑ってくれました。

こうして仲良くなり、話せるようになってくると、私が持っていったお土産の「おはじき」や「折紙」を持ってきて、教えてといわれました。おはじきはお父さんとアリアと3人で実際に遊びながらルールを教え、折紙はアリアと二人で一緒に折って遊びました。説明するのに少し苦労したこともありましたが、理解してくれたので良かったです。

こうやって毎日英語をつかっているうちにだんだんと耳が慣れてきて、明らかに最初の日より話している内容を理解できるようになりました。その事をホストファミリーに話したら、「その通りだよ。本当に英語がうまくなったよね」と言ってくれました。

そして、あっという間に別れの日がやってきました。その日の朝。高1のノアは、家を出るときに、日本語で「さよならみなみ！」と言ってくれ、お母さん・お父さんからはネックレスをもらい、アリアからは、二人で撮った写真付きの手紙をもらいました。本当に嬉しくて、ずっとここにいたい、と心から思い、別れがとてもつらかったです。「また来てね」と言われたので、今度は家族みんなで行きたいな、と思いました。今度行くときには、今より英語を話せるようにして、もっともっと会話が出来るようになりたいです。

最後にお世話になった先生方、そして一緒に活動してきたみんな、本当にありがとうございました。

「人とのつながり」

盛岡市立河南中学校 古舘 穂乃香

私が初めて行った海外は、この研修で行ったカナダ・ビクトリアでした。初めてということもあり、海外研修は不安でいっぱいでしたが、カナダの人達の優しさにふれ、カナダでの研修を充実したものにすることが出来ました。そして、この研修を通して、私はたくさんのことを学び、今までとは違う考え方や見方が出来るようになりました。

そうすることが出来るようになったきっかけの一つとして、文化も言葉も違う人たちと共に話し、暮らしたことがあげられると思います。カナダの人と話していて一番に感じたこと。それは、日本とカナダのコミュニケーションの違いです。ホームステイ先のホストファミリーはもちろん、初対面の人でも気軽に話しかけてくれ、人の優しさというものを身をもって感じました。そして、コミュニケーションの大切さを改めて感じ、日本人も人とのつながりをもっと大切にしていける必要があると思いました。

また、ホストファミリーと暮らしていて、家族の絆というものも強く感じました。日本ではあまり聞きなれない「ありがとう」や「愛している」などの言葉が、カナダでは日常会話のように使われていたのです。「ありがとう」は日本でもよく聞く言葉ですが、家族に普段使っているわけではないし、子供が親に「愛している」と言っているのを聞いた時は、とても驚きました。愛情表現が豊かなこともカナダのよいところです。日本でも「ありがとう」という感謝の気持ちぐらいいは、家族にも伝えていきたいと思います。

他にもカナダへ行って、私が見て、感じたことはたくさんありますが、その全てからいえることは、日本の人はもっと人とのつながりを大切にしていける必要があるということです。先に述べた、家族の絆や初対面の私への接しかたからも分かるように、カナダでは自分の気持ちを相手に素直に伝えていました。しかし、日本はどうでしょうか。日本人は消極的な人が多いのか、自分の思っている言葉を相手に伝え切れていません。しかし、それはもったいないことだと私は思います。それは、たくさんの人と話し、関係をもつことで、自分の考え、見方を変え、新たな発見が出来るからです。

実際に私はカナダへ行って、新しく学んだことがたくさんありました。みなさんにも、人とのつながりをもっと大切にしたいです。

「ありがとう！」

盛岡市立河南中学校 吉田 裕美

最初は不安だらけでした。

海外に親なしで行くなんて考えられないし、ホームステイでは英語を必要とするし、知らない人だらけだし…。こんなに家が大好きな私が、1週間も知らない場所に行くんだ、と思うと、

大丈夫かな？といつも考えていたし、友達や家族からも心配されました。でも自分で決めたことだからもう行くしかない！となるべく前向きに考えるようにしました。

そして10月8日。待ちに待っていた長い一日。飛行機から降りると「ほんとに来ちゃったんだな」という思いでいっぱいでした。でも、そんな思いも日に日に薄れていって、最後には「あっそういえばここはカナダなんだった！」と思うようになりました。

次の日からは初めてのホームステイでした。9日は祝日の前の日ということで、ホストファミリーの親せきの家でお食事会をしました。緊張していた私たちをその家の子供たちが、「公園で遊ぼう」と誘ってくれました。ルールが分からなくても、色々な方法で教えてくれたし、助けてくれました。やっと普通に遊べたときはうれしかったです。ご飯のあとも折紙をして、今度は私たちが教えてあげることができました。

ホームステイでは本当に楽しい時間を過ごせました。色々な場所へ連れて行ってくれたり、一緒に遊んでくれたり、たくさんの人に紹介してくれたり、ホストファミリーには本当に本当にお世話になりました。笑顔でいつも接してくれたのが一番ありがたかったです。またいつか会いたいなと思えるような時間を私たちに与えてくれました。もし会うことが出来たら今度はもっと色々なことを話したいし、ありがとうと言いたいです。だから英語を嫌いにならないでしっかり勉強したいと思います。

最後に、今回のこの研修に関った全ての人、家族や友達にありがとうございます！まだまだなところもたくさんあったけれど、去年からずっとあこがれていたこの研修に参加できたことが最高にうれしいです。それから、仲良くなった15人のみんなとはこれからもずっと仲良くしていきたいです。よろしくお願いします。本当に特別な一週間をありがとうございました！

「笑顔とあいさつから始めるコミュニケーション」 盛岡市立河南中学校 加藤 陽貴

僕がビクトリアに行く目的は、自分の英語力を向上させて、たくさんの人とコミュニケーションをとり、外国のことを知ることだと考えていました。

行く前から「自分の考えが相手に分かるように伝えること」を意識して生活していました。

ビクトリアでは、ホームステイが一番印象に残っています。ホストファザーが、学校に迎えに来てくれて、車で家に向かいました。まずは、笑顔であいさつをしてくれて、さらに僕達にも通じるようにゆっくりと丁寧に英語で話してくれました。誰かと出会うとき、第一印象はとても大切だと思います。このホストファザーのおかげで、すっかり安心して、その後のビクトリアでの生活を楽しむことができました。

ホストマザーは日本で暮らしたことがあり、日本語を少し話すことができました。お土産をとっても気に入っている様子で、「ありがとう」と言ってくれました。僕が食器の片付けなど少し手伝いをしただけでも、Thank you と言ってくれたし、英語の発音がうまくいったときには、Very good!と、オーバーアクションでほめてくれました。ホストファミリーの接し方で、こちらの気持ちもどんどんうれしく楽しいものになり、毎日わくわくして過ごしました。

モンレーミドルスクールでは、全員を紹介してもらった後、交流会や授業に参加しました。すれ違う人に次々と「Hi」と声をかけてもらい、感動しました。はじめのあいさつやきっかけが

うまくいくと、相手とのコミュニケーションをとりやすくなることに気づきました。

僕はいつでも誰かに話してもらえる準備をしているか、相手のことを気遣って声をかけているか、自分のことを振り返ることができました。そして、言葉を越えたコミュニケーションの力を感じました。

日本に帰って来てから、ホストファザーに、メールでお礼をしました。返信は、「ホームステイのときは、とてもおもしろかったね。」というメッセージでした。最後に「また来て下さい」と書いてありました。

僕はこの1週間のことを、ずっと忘れないし、いつか必ず、再びビクトリアを訪問したいと考えています。

「一週間で学んだこと」

盛岡市立厨川中学校 藤原 湧斗

僕は、この1週間で学べたことがとてもたくさんありました。ホームステイや学校などさまざまな場面があり、なおさら得るものが増えました。

ビクトリア市に行く前は、正しい英語を話せるか、はっきりと物事をいえるかどうかなど、たくさんの不安が自分の中にありました。

しかし、ホストファミリーと一緒に過ごすにつれ、その不安はなくなりました。ホストスチューデントのハリーと一緒に「スターウォーズ」のフィギュアで遊んだときは、初めから終わりまでずっと笑って話をして、英語で通じ合うことができました。ハリーと友達のアベリーと一緒にダウンタウンに行ったときは、スポーツ用品店でアイスホッケーの道具を分かりやすく説明してくれて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして、学校での授業見学、授業体験では、日本とカナダの違いについて、モントレールミドルスクールの生徒と交流をしました。最初は黙ったままでしたが、後半は自分から日本のことについて積極的に教えました。日本の学校、日本の料理、僕の好きな日本の恐竜やキャラクター、そして震災により自分の学校が現在使えず、三校分離の状態にある学校生活についても教えてあげました。もちろん、カナダの文化についても、分かりやすく教えてもらいました。

そして、カナダで学び得たことが二つもできました。一つ目は、コミュニケーションの大切さです。日本でも大切ですが、ここでは「いつでも、どこでも、だれにでも」です。学校やお店で、話したことのない人にでも、積極的に話していました。二つ目は、やさしさについてです。僕は今まで、人の意見については頭から否定することが多かったのですが、カナダではそのような人がほとんど見受けられませんでした。人の意見を尊重していました。

今回の研修では、このようにこれから生きていく上での必要不可欠なことをたくさん得ることができました。

この研修に参加して関わった人達全てに感謝しています。かけがえのない思い出になりました。本当にありがとうございました。

「初めての」

盛岡市立厨川中学校 坂尾 南帆

今回の研修は、私にとってたくさんの「初めて」がありました。

まず、初めての海外。車の右側通行、看板が英語かフランス語、フェリーにバスごと乗れること、聞こえてくる会話がすべて英語……。初日はあらゆることに驚いてばかりいました。そして何より驚いたことは、街の美しさでした。様々な種類の街路樹が植えてあり、緑が豊かで、建物もきれいでした。電柱が木でできていたり、街灯がみどりだったりと自然と同化するような工夫がされていて、街全体の景観に対する意識の高さを感じました。自分も自分の街のために何かを試してみたいと思います。

次に、私はホームステイをするのも初めてでした。2日目ホストファミリーと会った時は、緊張していましたが、ホストファザーのジェフも、ホストマザーのジェニーも少し日本語を話せたので、とても安心しました。「これなら結構やっていけるかも」なんて考えていましたが、初日サンクスギビングデーのホームパーティーに行き、一気に自信がなくなりました。ホストシスターの親戚と一緒に公園で遊んだときも、パーティーでの会話も、何を話しているのかほとんど理解できず、会話に加わることができませんでした。しかし、ナプキンで鶴を折っていると、隣に座っていた親戚の女の子が「折り方を教えて！」と聞いてきたのです！その後他の子供達やなんと従兄弟の母親、おばあちゃん等と一緒に折紙をしました。「英語があまり話せなくてもコミュニケーションをとれる方法があった！」と思い、とても嬉しかったです。その後は徐々に、英語を聞き取ったり、話したり出来るようになりました。ホームステイが終わる前日の夜、英語で自分の意見を行った時に、ジェニーに「素晴らしい！」と褒めてもらった事を忘れずに、どんどん英語にチャレンジしていきたいです。

他にも、色々な「初めて」がありました。様々な初めての経験を通し感じたのは、「積極的になることの重要性」です。初めてでも優しいカナダの方々に助けられ、自分から行動できるようになりました。

最後に、ずっと通訳(?)してくれたひろみちゃん、行かせて下さった様々な方々、付き添いの先生方、本当にありがとうございました。

「太田古都は です！」

盛岡市立厨川中学校 太田 古都

「ああ、嫌いな ちゃんに会いたい・・・」本当にそう感じてしまうほど、ホームステイ初日の夜は泣きそうだった。ホストファミリーと会った瞬間から私の口は動かなくなったのだ！ホストファミリーへの自己紹介カードには「私はいつも元気一杯、笑顔です！」なんて書いたが、いったいどこが元気なんだというような無口ぶりに、ホストファミリーもびっくりだったろう。一日目、やっと寝られると思ったら、枕が多すぎて寝るスペースが狭く、本当に涙が出そうだった。普段出されても残してしまうみそ汁が飲みたくなかった。

私は、中学校での生活があまり上手いかなくなり始め、そんな中いきなりカナダへGo!というようにことになったため、色々な思いを詰め込み出発していた。すごい大問題とかにぶち当たっているわけではなかったが、結構悩んでいた。



でもそんなのは一気に吹っ飛んだ！まず、飛行機の着陸時の耳鳴りが痛すぎてもう、耳からスイカが出てきそうだった！夕食のサーモンにかかっていたソースが未知の味だった！無口すぎた！枕多すぎた！「ワタシエーゴワカリマセーン！」etc.

本当に自分が悩んでいることが小さい！それに自分も小さい！全部小さい！と思えてきた。なんて Big な国なんだ、カナダ。もう考え方が 180 度ではならず、250 度くらい変わってしまい、人格すら変わってしまいそうな勢いだった。

それと、プレゼンテーション！レディガガの「Pokerface」がワタシを最高のエンターティナーへと導いてくれた。MMS の生徒のみんなは本当にノリがよくて、もっとやりたいと思った。本当に。

今回の研修で、一番の得たものという、「友達」だ。カナダに親友ができた。キムとモーゲンとオーゲン(?)とマリんとジョーダンだ。親友になるまでには、海より深いわけがある。とりあえず、モーゲン、男の子と間違っでごめんね。ジョーダン、ジョーダンて名前の漢字が思いつかなくて「冗談」って教えてごめんね。使わないでね。友達って日本人に限らなくていいんじゃない！無理してる時点でもう友達じゃないんだ！ワタシには、こんなにたくさんの友達がいる！無理なことなんてないことを知った！ありがとうカナダ。また会いに行くからね！

「かけがえのない宝物」

盛岡市立乙部中学校 千葉 岳

今回の研修で、多くの感動とたくさんのかけがえのない大切な事を学ぶことができたと思います。

他の学校の異学年の仲間と行った事前研修はとても楽しく、心強く、研修に対する不安を取り払ってくれました。何の心配もなく、期待に胸をドキドキさせながら飛行機に搭乗した出発の日が昨日のこのように思い出されます。

カナダに到着して一番に感じたのは、自然が豊かで美しく、スケールが大きいということです。街の中は笑い声や話し声であふれていて、とてもにぎやかでした。

あまり英語が話せない僕でしたが、全員で行動しているうちに、いつの間にか自然に英語を使うようになっていたのは、小さな驚きでした。

ホストファザーのディビット・ウッズさんと対面しいよいよホームステイ開始。カナダは収穫感謝祭の真最中で、最初の夜はディビットさんの友人宅のパーティーでたくさんのご馳走を食べました。中でもターキーのおいしさは忘れられません。

ホストファミリーとは、休日買い物をしたり、図書館に連れて行ってもらったり、ファミリーや近所の子供達とホッケーをしたりして過ごしました。

モンレーミドルスクールでは、授業体験をしたり、ロングスキー(むかで競争のようなもの)をしたり、日本で準備していった、日本の衣食住に関するプレゼンテーションを、グループ毎に行ったりしました。英語で行うプレゼンテーションは僕にとって初めてでしたが、多少のハプニングはあったものの、大いに盛り上がり、とても良い経験になったと思います。

カナダで最も印象に残ったのは、カナダの人々の人柄です。人ごみの中や、家の中の狭い通路でぶつかった時等、「Sorry」、「Excuse me」と言ってくれ、とてもフレンドリーです。お店の店員

さん達も皆笑顔、ビクトリアは笑顔で溢れていました。

相手の目を見て話を聞くことの大切さ、笑顔を忘れないこと、そしてとにかくチャレンジすること。この研修で僕が学んだ、大切な宝物です。

生活のほんの小さな出来事さえ大きな思い出となったこの経験を、これからの人生に活かしていきたいと思います。そしてこの研修を支えてくださり、この貴重な体験をさせて下さったすべての方々に感謝したいと思います。

「たくさんの『思い』に包まれて」 盛岡市立乙部中学校 川井 円香

研修を終えて・・・私がまず感じたのはさみしさでした。代表として選ばれたときは、最後の日までは3ヶ月も先だと思っていたのに、実際は本当にあっという間で、その時が昨日のようにも感じられました。

そんな3ヶ月間の中で、15人の仲間と過ごした約216時間。私ならもう一度皆と会って、気の済むまで好きな事をしたいと思いました。英語もうまく話せない、そんなに面白い話もできない私を、あたたかく引き込んでくれた皆が、私は大好きです。

次に感じたのは、ホストファミリーの事でした。緊張と不安で一杯の私を、笑顔で出迎えてくれた時の安心感と喜びは、今でもはっきり覚えています。シャワーからあがった時、「Do you want something to drink?」と聞いてくれた事。さんさの笛を吹いてあげた時に、「Beautiful!!!」と喜んでほめてくれた事。すべてがあたたかくて、大切な思い出です。ホストファミリーの皆さん、Thank you very much !!

最後に感じたのは、今回の研修を通して関った方々の思いでした。家族の送り出す思い。仲間のカナダに対する思い。引率の先生方の私たちを守るという思い。事務局の方の影から支えてくれた思い。カナダの方々の私達を受け入れた思い。そんな数え切れないような、たくさんの思いに包まれたからこそ無事に楽しく研修ができたのでしょう。そんな、思ってくれた方々に感謝です。

私は今回、どんなに感謝をしてもしたりないほどです。素晴らしい体験、経験ができ、良い思い出もつくれて文句の言いようがありません。これからもビクトリア研修が続いていくこと、お世話になった方々が元気で過ごす事を心から願っています。

またこのメンバーでカナダに行きたいなあと思う私でした！I'm very happy ! Thank you !!

「ビクトリア研修を終えて」 盛岡市立城西中学校 大関 裕太

10月8日から10月15日の8日間という短い研修が終わりました。今、自分の目標やビクトリア市へ行って何がしたかったのかを思い出してみると、目標は「積極的な人になる」、テーマは「カナダのビクトリア市へ行ってたくさんの文化を取り入れ、たくさんの文化を伝える」ということでした。それを校長先生の前で話したことを今でも覚えています。

カナダで最初に達成できたことは、この「カナダのビクトリア市へ行ってたくさんの文化を取り入れ、たくさんの文化を伝える」ということでした。このテーマが達成されたのは、ホームステイをした時とモンレーミドルスクールの生徒達とコミュニケーションをとった時でした。ホームステイをした時は、日本の遊び道具をプレゼントし、遊び方を教え、日本食を作ったりと、日本の事について伝える事ができました。文化については、サンクスギビングディというものがあるということが分かりました。また文化ではなく習慣ですが、部屋を使わないときはドアを開けたままにしておくことや、家の中で靴は履いても履かなくてもどちらでもよいということ、寝る時間が8時~9時と、とても早いということなど、たくさんの習慣が分かりました。

モンレーミドルスクールでは、スクールの生徒達と個別で話をした時に、盛岡の三大麺やずしを紹介しました。また、研修生全員が衣食住の3つのグループに分かれ、僕はその中の「住」について発表しました。モンレーミドルスクールの生徒達が一生懸命聞いてくれたことがとてもうれしかったです。

次に目標についてです。目標はカナダから帰ってきてから実感しました。学校で役員を決めるときに、自然と自ら立候補して、議長や応援団、数学のリーダーになりました。やってみたいというより、やりたいという前向きな考えでこれらになることができたことが、この研修で自分が一番成長したところではないかと僕は思います。

僕はこの研修に参加できて本当に良かったです。またこのようなチャンスが僕の人生の中で一回でもあればもう一度参加し、自分自身のよさをもっと引き出して、自分がまた一段と大きくなれるような研修がしたいです。最後に改めてこの研修に参加することができて、本当によかったと心から感謝しています。

「memories」

盛岡市立城西中学校 伊勢 若菜

今思い返すと、本当に充実した一週間でした。記憶をたどって、たくさんの思い出を一つずつ思い返してみると、本当にどれも楽しい思い出ばかりで自然と笑みがこぼれてきました。

私のこの研修での一番の不安は、会話がすべて英語という環境の中で過ごさなければならないことでした。しかし、ホストファミリーやモンレーミドルスクールの生徒さん達との会話の中で、私が相手が何を言っているのか理解できなかった時、申し訳ないなと思って、「Sorry」と言うと、みんなにっこりと笑って、「That's OK」と言って紙に絵を描いてくれたり、分かりやすい別の言葉で説明してくれたりしました。そんなカナダの人々の姿が強く印象に残っています。会話の中で、分からない、伝わらないもどかしさもありましたが、それを通してカナダの人々の優しさに触れることができました。

私がこの研修の中で、特に強く思い出に残っているのは、モンレーミドルスクールでのプレゼント、ホストファミリーと一緒に食べた夕食です。

プレゼンでは、私はチーム GYOZA の一員で、衣について紹介することになっていました。盛り上がりは想像以上のものでした。日本であんなに盛り上がることはまずないと思います。テンション MAX の会場の中での発表は、すごく楽しかったです！チームの仲間達も、盛り上げ方がすごく上手で、あんなに盛り上がったのは、きっとそのおかげだと思います。日本では絶対に体験

できないであろうこの時間は、研修の大きな思い出の一つになりました。

また、ホストファミリーと過ごした時間も大切な思い出です。ファミリーの親戚を呼んで、一緒に夕食を食べたのを覚えています。大勢でワイワイと同じ食卓をかこんで食事。まだカナダに来てから日が浅く、緊張でガチガチだった私達を笑顔で迎えてくれ、まるで本当の家族のようにふるまってくれたのが、とてもうれしかったです。

この一週間で、数え切れないほどたくさんの思い出ができました。研修を支えてくれた人みんなに「ありがとう」と伝えたいです。ありったけの感謝をこめて。

「人生で初めての経験」

盛岡市立下橋中学校 金田一 慈子

ビクトリア市研修は、私の初めての海外でした。

事前研修では、初めてあった人達と人間知恵の輪などをしました。でも、回数を重ねていくうちに、初めて会った他人から、何度か会った友達に変わっていきました。

平日にあった市長表敬では、市長さんの前で緊張しましたが、無事あいさつできました。

そしていよいよ研修当日。初めての海外ということで楽しみと緊張が混じる中、バンクーバーに到着しました。フェリーに乗ってビクトリアに行きました。ビクトリアでは観光をしました。ガイドの伊藤さんに説明してもらいながら市内をめぐり、夕方になってホテルに行きました。夕食後、ホテルの部屋で女子会をやり、楽しく過ごすことができました。

ホスト校のモントレールミドルスクールでは、私のつたない英語をきちんと聞いてくれてうれしかったです。また、授業参観中の避難訓練では、私たちの動きを先生が指導してくださり、とても助かりました。

ホームステイの家では、とても聞き取りにくかったらう私の英語で、ホストマザーのバーバラをはじめ、ホストファザーのジョン、末っ子のギャビン、ペットのチカ、ソービーとお世話になりながら交流することができました。たった4日間でしたが、とても楽しかったです。

フェリーでまたバンクーバーに戻って、市内観光をしました。わざわざお土産店に行ってくれたバスの運転手さんやそれを考えてくださった方々に感謝しています。

最終日、渋滞の中、バスの運転手さんはクリスマスに作るお菓子の家のような家へ向かってくれました。私たちへの特別サービスです。

飛行機はとても早く着きました。盛岡駅に到着し、解団式をしました。

今回のビクトリア市研修では、スピーチコンテスト出場を許してくれた家族、コンテストのために私のお世話をしてくれた校長先生、小原先生、学校の先生方、友達、引率の先生、伊藤さんをはじめガイドの方々、大変お世話になりました。楽しかったです。ありがとうございました！

「If」

岩手中学校 八重樫 怜

「あなたが海外に行くとしたら、どこに行き、何をしますか。」

この言葉が、私がこの研修に参加する理由を作りました。改めてあなたに、そして自分自身に聞いてみたいと思います。「あなたが海外に行くとしたら、どこに行き、何をしますか？」

最初は、震災で家も日常もそして友達も失った私は旅行でもしてみたいと思い、参加を決めました。行き先もどこでも良かった。つまらなくなければいいと思っていました。

毎週のように土曜日 10 時に研修がありました。最初の頃は、当校の代表は自分一人だったため、少しだけ疎外感みたいなものがありました。しかし、顔を合わせるたびに楽しくなっていました。

カナダに行き、観光・ホームステイ・宿泊などをするたびに、色々なことを学んでいきました。その中で特に言葉の壁というものがありました。「自分の事を誰かに伝えるって難しいな」お互いが相手の心を完璧に理解することは誰もできません。ただ、自分の気持ち、自分の意思を相手に理解してもらうことはできます。そのため、理解してもらうにはどのようなことをすればいいのかと思いました。「それぞれの母国語を勉強する」「ジェスチャーや絵などを使う」など、方法は様々なのですが、やはり一番よいのは、「相手の話せる言葉を話せるようになる」ということだと思います。しかし、そんなことが出来るような人は世界で数人しかいないと思います。だから、まずどんな方法でもいいから「伝える」ということをしたいと思います。そこで私が思う質問の答えは、「私が海外に行くとしたら、色々な国で伝える」です。正解はあるのかどうか分かりませんが、自分の中ではそれが正しいと思っています。

最後に、この研修で学んだことは本当にたくさんあります。同じ地球上の人間であるのに、人それぞれの言葉や思い、そして伝え方があるんだなと改めて思いました。研修を終えて、書こうと思う事はたくさんありますが、「ありがとうございました」と伝えようと思います。

第 18 回中学生ビクトリア市研修

団長 古舘 朋昌

平成 23 年 10 月 8 日（土）から 15 日まで、私たち 19 名の第 18 回中学生ビクトリア市研修団は、カナダ、ビクトリアにて素晴らしい研修を送ってくることができました。

8 月 20 日から 3 回に分けて行われたプレゼンテーションの準備に携わりながら、果たして団員の生徒たちはうまく人間関係を築き、よい研修結果を収めることができるだろうかと心配していましたが、全ては私の杞憂に終わりました。盛岡駅での出発前のあいさつ時はまだよそよそしさがあった生徒たちも、新幹線に乗ってからどんどんお互いの交流を深めていきました。成田に着き飛行機に乗る前は、お互い躊躇せず思ったことを話ができるくらいになっていました。

バンクーバーを経てビクトリアに到着し半日の観光の後、私たちはホスト校のモントレイミドルスクールに向かいました。それぞれの子もたちが（私たち引率教師も含めて）どんなホストファミリーのところに行くのだろうという不安を大きく持っていたと思うのですが、これもまた私の杞憂に終わりました。すでに校内の部屋で待っていてくれたホストファミリーたちは、それぞれ名前を呼ばれる生徒たちに、陽気に、笑顔で名乗り出てくれました。またその反応に対し、団員の生徒たちも笑顔で答えホストファミリーたちにあいさつする姿を見て、自分たちは本当に歓迎されているのだという実感がわくとともに、団員の生徒たちはうまくホームステイ先の家庭にとけこんでくれるだろうと確信しました。

モントレイミドルスクールでの最終日のプレゼンテーションでは、素晴らしい体験を送ることが

できました。マッカートニー副校長先生の協力のもと、団員の生徒たちは500人近くの生徒たちの前で物怖じせず、衣・食・住のテーマでプレゼンテーションを行いました。「住」の班は、日本の学校生活にちなんだクイズショーを、「食」の班は、盛岡の食べ物をわかりやすく絵にまとめたプレゼンを行いました。そして最後に「衣」の班は Japanese Fashion Show を行いました。生徒たちの活動は、どれも堂々とそして生き生きとしたものとなりました。今回の旅行での経験はそれぞれの生徒たちに非常に有意義なものになったと思います。

今回の研修にあたり、ビクトリア市長の Dean Fortin 氏、ビクトリア盛岡友好協会会長の McCreadie ご夫妻をはじめとする関係者の皆様、盛岡市教育委員会、財団法人盛岡国際交流協会の関係者の皆様、研修アドバイザーの山崎泰弘先生、今回共に引率いただきました盛岡市立北松園中学校の藤澤克恵先生、盛岡市立厨川中学校の中自由美子先生、事務局の関田あいさんに感謝の意を表し、挨拶にかえさせていただきます。